

令和3年度 富山県美術館運営委員会 委員意見

- ・令和3年度富山県美術館運営委員会を、10月27日(水)富山県美術館において開催した。
- ・美術館の活動報告資料等を基に、ご出席の委員各位からのご意見、ご欠席委員含め後日書面等にてお寄せいただいた内容にて、下記のとおりご意見の要旨をまとめた。

主な意見要旨

【 A委員 】

- ・展覧会、普及活動もグレードが高い。コロナ禍でも、様々な活動を進めていると感じた。

【 B委員 】

- ・TAD ギャラリーでの美術連合会と県展新人賞の展示は、県民が親しみを持てる内容。
- ・開館から数年経つが、館の愛称「TAD (タッド)」が浸透していない印象がある。

【 館長 】

- ・「TAD」は「富山、アート、デザイン」という当館の趣旨を伝える愛称。浸透していくための工夫をしたい。

【 C委員 】

- ・TAD フレンドシップ (友の会) やボランティアについては、コロナ禍が長く続いているため、活動が停滞を強いられているが、その一方で数々の展覧会を開催され、様々な普及活動にも大変力を注いでいる。力になれるよう美術館への協力を続けていきたい。

【 D委員 】

- ・TAD ギャラリーは無料の展覧スペースであるが、あまり知られていないので、来館者にもっと伝わればよいと思った。

【 館長 】

- ・無料で利用できるスペースが多いことは、県美術館の魅力であるので、伝える工夫を検討していきたい。

【 A委員 】

- ・企画展やコレクション展 (常設展) は、中学生・高校生は無料であるが、「東山魁夷展」 (以下、東山展) を観覧した際、学校帰りの生徒たちが観覧するのを見かけて、嬉しく思った。

【 E委員 】

- ・東山展など本当に素敵なものは、私たちの心を豊かにしてくれると思う。
- ・保育の現場に携わっていたので、絵本をテーマにした展覧会を身近に感じる。

【 F委員 】

- ・展覧会活動、普及活動ともに多彩に取り組まれている。
- ・企画展の観覧者数が多くても、常設展の観覧者が少ないという美術館もある中で、県美術館は、常設展（コレクション展）の観覧者数も比較的多いことが特徴的である。コレクション自体に魅力があり、（定期的に展示を入れ替えるなど）展示に力を入れている成果だと思う。
- ・普及活動は、未就学児対象「ひよこツアー」など幅広い世代にきめ細かく行っている。
- ・3階のオープンラボは、ボランティアさんの協力のもと毎日実施されていて大変だと思うが（コロナ禍のため中断期間あり）、美術館関係者は参考にしたい活動であると思う。

【 G委員 】

- ・展覧会活動、教育普及活動、研究活動いずれも充実しており、高く評価できる。
- ・アフターコロナの社会状況において、今後しばらくの間は、海外から作品を借りてきて行う大型展の開催はリスクがつきまとう。その点、県美術館は、豊富なコレクションを持っているため、コレクションを活かした展覧会も可能であり、強みになっている。今後もコレクションを有効に活用していただきたい。
- ・素晴らしいコレクションがあることを多くの人々によりアピールしていく必要がある。県美のホームページはデザインも洗練されていて見やすいし、主要なコレクションも紹介されているがさらに充実できるとよい。
- ・SNSも頻繁に発信されているが、主に企画展情報なので、コレクション情報も発信できるとよいと思う（現状、コレクションの他館への貸出情報が発信されているが、これは評価できる）。県美術館のコレクションは、多くの作品が著作権処理が必要なため、ご苦労はあると思うが、ぜひ工夫して取り組んでいただきたい。

【 館長 】

- ・コロナ禍で展覧会計画を大幅な変更したが、コレクションの充実を本当にありがたいと思った。美術館を支えるものはコレクションであると痛感したところであり、広くアピールする必要があると思う。新しい切り口により、コレクションを見せる工夫もしていきたい。

【 H委員 】

- ・子育て世代としては、企画によっては敷居が高くて、子供を連れてくるかどうか迷うことがある。CMなどの発信の仕方を子供向けに工夫されたら興味が沸くのではと思った。

【 館長 】

- ・企画展以外でも、オノマトペの屋上、3D ドローイング、ポスタータッチパネルなど子供が楽しめる工夫をしており、企画展とともに親子で楽しんでいただきたい。
- ・子供が展覧会に親しむ工夫として、例えば令和元年の企画展「日本の美」では、同時開催でNHKの番組を基にした「びじゅチューン」とのコラボレーションも行った。

【 I委員 】

- ・体験型の要素が加わり、教育普及活動も充実し、良い方向に進んでいる印象。
- ・企画展「世界ポスタートリエンナーレトヤマ 2021」では、全てのポスターが美しく見え、東山展では置かれた空間が想像できるなど、観覧者に対する展示の工夫が感じられた。
- ・環水公園から歩いて来たくくなるような雰囲気作りがもう少しできればと思う。
- ・普及活動は児童・生徒に対する取組みが充実しているが、経営者や社会人向けに、美術に関する理解や知識が深まるような活動もあればよいと思った。また、子供たちに限らず、SDGs を美術・芸術を通して理解できるような事業があれば良いと思った。

【 J委員 】

- ・学校教育の現場も美術館同様、対面での活動が難しいままであり、経験・体験を通して学ぶことの大切さを実感している。県美術館と教育現場の連携で継続してきた教育企画展（「START☆2022」）の準備が進んでおり、非常にありがたい。
- ・美術館が子供向けに敷居を下げしてくれるのはありがたいが、背筋を伸ばしていいものを見るという時間も重要。良いものに出会える楽しさがある場として、あまり敷居が下がってしまうのもどうだろうという気がする。
- ・美術館は、心を耕してくれる場所として大切であると考えている。

【 K委員 】

- ・日頃から、美術館は日常生活を豊かにしてくれる存在であると思っている。
- ・県美術館は、展示や教育普及活動ともに、質も高く事業数も多い。動いている美術館という印象がある。
- ・特に教育普及活動が充実しており、幅広い世代を対象としたプログラムがあるのが良い。（単なる来館誘導ではなく、美術館に親しむ気持ちを養うような）気持ちを持っていく方のプログラムが充実していて驚いた。
- ・コロナ禍により、人が集まる場所が「大きく、たくさん」から「小さくてもポテンシャルの高い」に向かう傾向がある。デジタル化を活かしたイベントも期待できるのではないかな。

【 A委員 】

- ・リモートでの取組みは、感染症拡大に伴う外出自粛を強いられた人だけではなく、(ご自身の都合で)外出がなかなかできない方々にとっても、様々な文化活動に触れる良い機会となっているように思う。

【 生活環境文化部長 】

- ・委員の皆様より、多様な意見をいただき感謝申しあげる。
コロナ禍でのデジタル配信の動き、教育現場との連携など、今後、リアルとオンラインとの併用による相乗効果も期待される。今後ともご意見を頂きたい。

【 館長 】

- ・委員の皆様から貴重なご意見をいただいた。参考にさせていただきたいと思う。
コロナ禍を一つのチャンスとして捉え、工夫しながら美術館の活動を継続していきたい。

委員会後に寄せられた意見

【 D委員 】

- ・県外委員からの、コレクションの素晴らしさを伝えて欲しいという意見に賛同。県民として誇らしく思った。

【 J委員 】

- ・コロナ禍での教育現場において、子ども達も不安な日々を過ごしている。行事、仲間との関わり等制約が多く、子ども達の成長にも影響を及ぼしている。教育企画展(「START☆2022」)などで自分たちの作品が美術館に展示されることで、少しでも美術館を身近に感じ、作品と出会うことでの心の安らぎや、自身を見つめる時間となってくれることを願っている。
- ・若い世代には美術館にもっと親しむ機会があればと思った。

【 L委員 】

- ・全体として、コロナ禍の中、たいへんよく考えて企画されていると感じた。特に、教育普及プログラムについては、県内の児童・生徒への配慮が大いになされており、美術館の取り組みに感謝したい。